

はだか麦の平均収量450kg/10aを目指した総合改善対策マニュアルの作成

農林水産研究所

はだか麦は年ごとの単収の増減が大きいいため、毎年安定して多収が得られる改善対策技術を開発しました。生産者向けのほ場診断及び対策マニュアルをホームページ上で公開しています。

昨年までのあなたのはだか麦ほ場のトラブルはどのタイプ? 愛媛県農林水産研究所

その1 播種・出芽・苗立ち

- ☑ 水が引かず播種が遅れる 対策A△
 - ☑ 播種時に土が練りこみ、土塊が大きくなり苗立ち不良 対策A△
 - ☑ 播種後に水が溜まって苗立ち不良 対策B△
- 降雨後滞水する部分が→苗立ち不良に
- ☑ ほ場は比較的乾いているが、苗立ちが悪い
 - ↳ 播種深が深すぎる または 浅すぎて覆土できていない ほ場の均平、稲わらを広げておく、播種深を2~3cmに調整する
 - ↳ 播種後の土壌表面が固結している 播種前の耕起は最低限に

- ☑ 生育初期は順調だったが、12月末~1月に下位葉の黄化が目立つ
 - ↳ 水が溜まって生育不良 対策B△
 - ↳ 早播きにより生育過剰・窒素不足に 適期播種と 対策D・E△
 - ↳ 厚播きにより生育過剰・窒素不足に 適正播種量と 対策E△



- ☑ 生育中期に雑草の発生が多い 適期に適切な除草剤を散布する

その3 出穂期~成熟期

- ☑ 枯熟れ症状が目立つ、または葉色の抜けが早すぎる (出穂3週後に緑葉が3枚未満)
 - ↳ 水が溜まって生育不良 対策A・B△
 - ↳ 根張り不足で簡単に抜ける、倒れる 対策D△
 - ↳ 肥効不足で生育不良 中間追肥の適期施用 対策E△
 - ↳ 株腐病 早播きをさける、種子消毒する、罹病株を焼却する



- ☑ 生育は問題ないが、穂数が少ない または 穂長が短い、収量が低い 生育期間中の葉色を高く保つ 対策E△

その2 生育初期~莖立ち期

- ☑ 生育初期から生育量が少なく、黄化が目立つ
 - ↳ 水が溜まって生育不良 対策A・B△
 - ↳ 苦土石灰を施用しておらず、土壌のpHが低い 対策C△
 - ↳ 少雨で土壌が乾燥・膨軟、生育が鈍く葉色が薄い 対策D・E△
 - ↳ 除草剤の葉害 ... 散布量・時期により葉害が発生しやすい剤に注意



図1 生産者向けのほ場多収阻害要因簡易診断チャート

平均収量450kg/10aを目指した収量向上のための総合改善対策

A 乾きやすく播種しやすいほ場づくり

- ☑ 播種前の排水対策で、適期播種できる乾きやすいほ場をつくる
 - 前作が終わりしだい、ほ場周辺に深堀り明きよを施工する
 - 弾丸暗きよは、本暗渠と直角または斜めに3~5m間隔で施工する
 - 排水不良田では、チゼルプラウ等による荒起こしでほ場を乾かす



B 畦立て同時播種で湿害防止

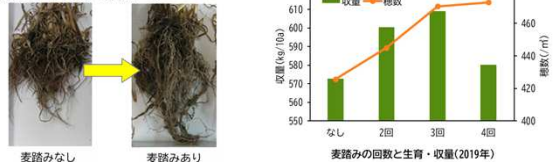
- ☑ 畝立板を作業機に設置することで、播種と同時に明渠を設け、苗立ちを向上させる
 - 明渠は1.5~3m間隔、深さ15cm程度で設置する。水戻まで必ず繋げる
 - 溝が浅い場合は、補修を兼ねて土入れを行う



D 麦踏みで根量を増やし、莖数を制御する

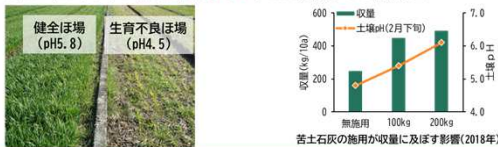
- ☑ 麦踏みを3葉期以降~莖立ち前までに1~3回行う

- 麦踏みによって根の張りが深くなり、土壌の過湿・過乾に強くなる → 登熟が良くなり、増収する



C 適正な土壌pHに補正する

- ☑ 播種前に必ず苦土石灰(100~200kg/10a程度)で土壌pHを改善する
 - 追肥にはpHの下がりやすい硫酸は使用しない。NK化成などを使用する



E 追肥重点型施肥で葉色を保つ

- ☑ 基肥量を減らして過繁茂を抑制し、葉色に応じて中間追肥を分施する (ハルヒメボシではSPAD値40、葉色板5が目安)

- 1回目の中間追肥を12月下旬、2回目を1月下旬に施用する
- 播種量は11月中下旬播きで8kg/10aを厳守 (11月上旬なら6kg、12月上旬なら10kg/10a)

追肥重点型施肥の施肥体系

施肥法	基肥	中間追肥	穂肥	計	
慣行	7	0	2	3	12
追肥重点	4	3	3	3	13

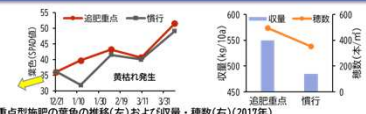


図2 はだか麦収量向上のための5つの総合改善対策

総合改善対策マニュアルのURL :

https://www.pref.ehime.jp/h35118/1707/siteas/00_honsyo/honsyo.html